

おおやしき こようせきぐん きたあらやびーこふんぐん
大屋敷古窯跡群・北新屋B古墳群
発掘調査現地説明会

2016年1月10日
浜松市 文化財課

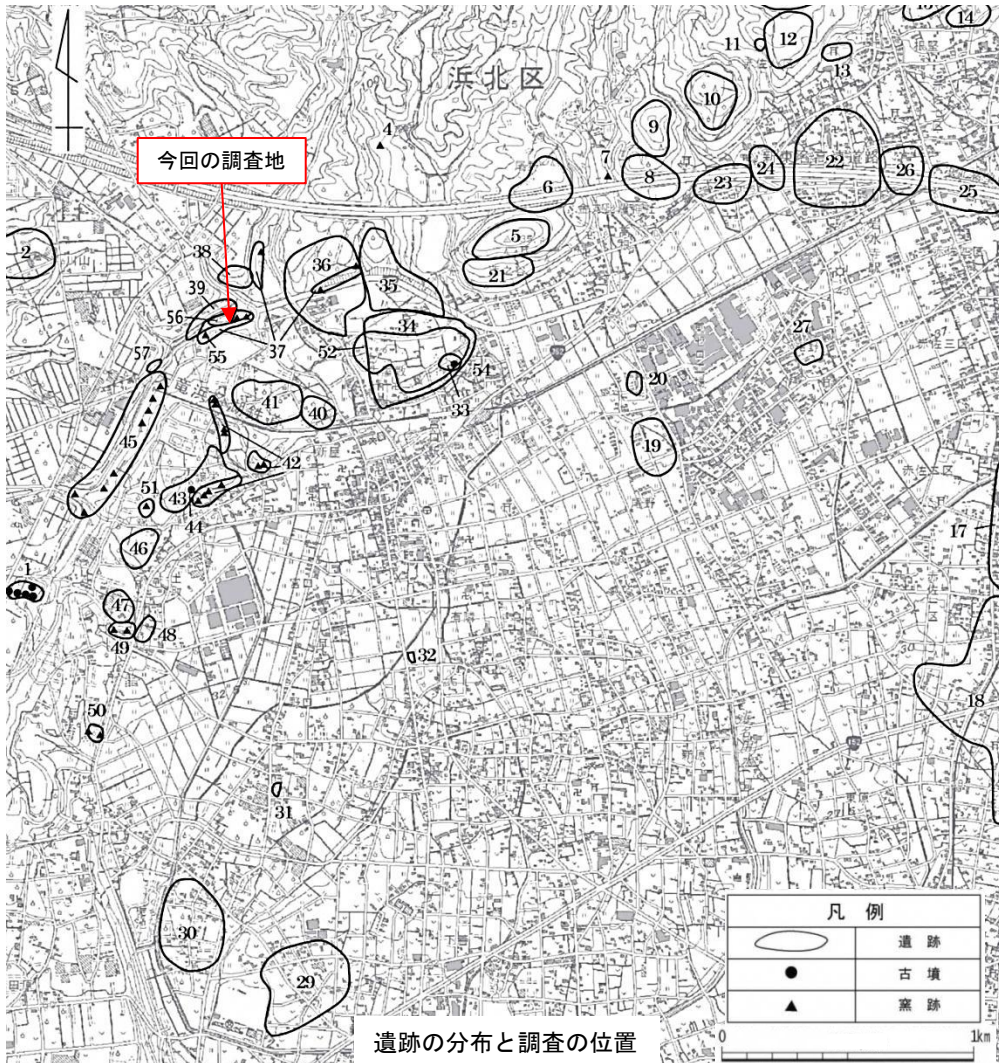
はじめに

浜松市では、浜北区宮口において国道362号バイパス整備に先立つ発掘調査を2015年11月から実施しています。今回の調査では、平安時代（約1,000年前）に陶器を焼いた窯の跡や、古墳時代終末期（約1,400年前）に築かれた古墳の石室が発見されるなど、大きな成果が得られました。

遺跡の位置と環境

今回の調査地は、浜北区の北西部に位置し、三方原台地から河岸段丘への斜面にあたります。周辺には、小規模な谷がいくつも形成されており、そのような谷の斜面などに、平安～鎌倉時代の陶器を焼いた窯跡が約30基確認され「宮口古窯跡群」と呼ばれています。

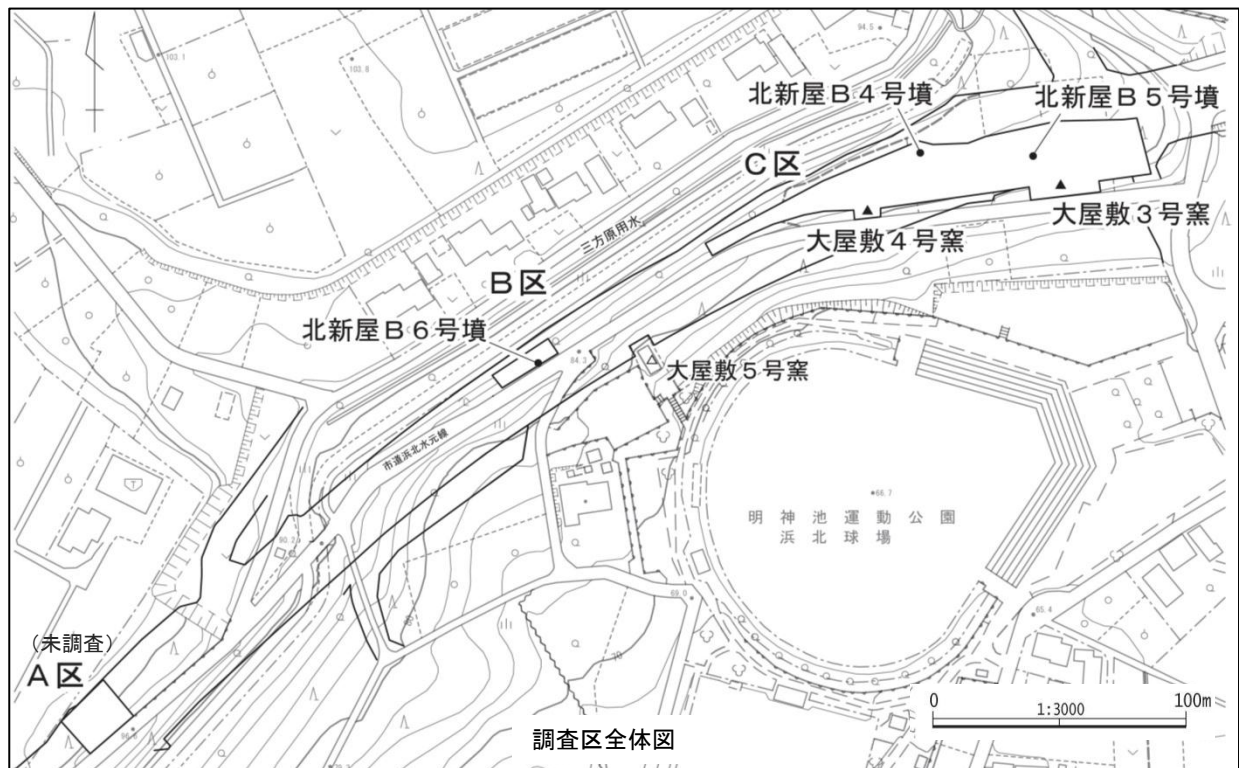
また、台地・丘陵の縁辺や斜面からは、古墳時代後期～終末期に築かれた古墳が多数確認されています。



番号	遺跡名
1	都田山十一古墳群
2	都田山十九Ⅱ遺跡
3	小林山の神遺跡
4	西ノ谷古窯跡
5	高根山B古墳群
6	高根山・高根山A古墳群
7	車ノ谷瓦窯跡
8	雲岩寺C古墳群
9	雲岩寺B古墳群
10	雲岩寺A古墳群
11	泉墳墓
12	泉B古墳群
13	根堅遺跡
14	中坊遺跡
15	北谷遺跡
16	泉A古墳群
17	芝本遺跡
18	東原遺跡
19	長者屋敷遺跡
20	竈屋敷遺跡
21	高根山C古墳群
22	中屋遺跡
23	中通遺跡
24	寺海土遺跡
25	上海土遺跡
26	大門西遺跡
27	相野遺跡
28	新原古墳群
29	清水遺跡
30	堀池遺跡
31	野口遺跡
32	野口前遺跡
33	大屋敷墳墓
34	大屋敷B古墳群
35	大屋敷A古墳群
36	大屋敷C古墳群
37	大屋敷古窯跡群
38	北新屋A古墳群
39	北新屋B古墳群
40	新屋古墳群
41	新屋遺跡
42	吉名古窯跡群
43	讀栄Ⅰ遺跡
44	新池東古墳
45	讀栄古窯跡群
46	讀栄Ⅱ遺跡
47	土取Ⅱ遺跡
48	土取Ⅰ遺跡
49	土取古窯跡群
50	天神山古窯跡群
51	新池古窯跡群
52	大屋敷遺跡
53	天室屋遺跡
54	興覚寺後古墳
55	大屋敷5号窯跡
56	北新屋遺跡
57	讀栄Ⅲ遺跡

西暦	時代	出来事（本書は掲載の遺跡）
1868	明治	日本列島に人が住み始める
1603	江戸時代	根堅遺跡（浜北人出土）
1572	戦国時代	土器や弓矢が使われ始める
1467	南北朝	都田山十六遺跡・高塚遺跡
1338	鎌倉時代	蜷塚遺跡（集落・貝塚の形成）
1185	平安時代	殿畑遺跡
794	奈良時代	九州北部に稲作が伝わる
710	飛鳥時代	将監名遺跡・社口遺跡・舞阪町天白遺跡
645	古墳時代	松東遺跡・東原遺跡・梶子遺跡
239	弥生時代	古墳がつくられ始める
180	縄文時代	卑弥呼が魏に使節を送る
100	旧石器時代	住吉南古墳
50		狐塚古墳
0		郷ヶ平古墳群
		半田山古墳群
		北新屋B古墳群
		大屋敷古窯跡群

略年表



大屋敷古窯跡群調査の成果 ～平安時代の窯業地帯～

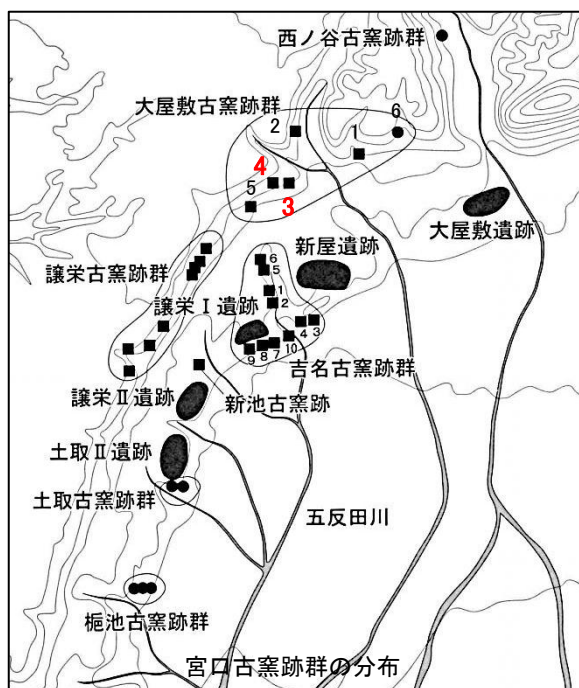
宮口古窯跡群で平安時代に焼かれている陶器は、灰釉陶器（かいゆうとうき）とよばれるもので、水にとかした灰を塗ってから焼くことで生じるガラス質の膜（釉）によって、表面の一部がおおわれています。

宮口古窯跡群は、いくつかの支群に分かれており、今回の調査で確認されたのは大屋敷古窯跡群の3号窯と4号窯の2基です。過去には、吉名古窯跡群の1・5・6号窯や、大屋敷1・5号窯で発掘調査が行われています。

【大屋敷4号窯】※表紙写真

天井部や焚口、灰原は失われていましたが、焼成室の部分がみつかりました。規模は現存の長さ約5.3m、最大幅が0.9mです。窯の壁は粘土を貼りつけており、その外側の土は熱によって赤く変化しています。一部では壁が改修された跡も確認されています。

出土している灰釉陶器の特徴から、10世紀後半～末頃にこの窯が使われていたと考えられます。



【大屋敷3号窯】

調査の途中であるため窯の内部は未発掘ですが、窯の周辺で灰釉陶器が多数出土し、複数の遺構も検出されています。これらの遺構の内部の調査はこれからですが、3号窯の操業に関係している可能性があります。

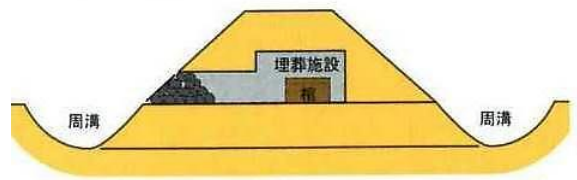
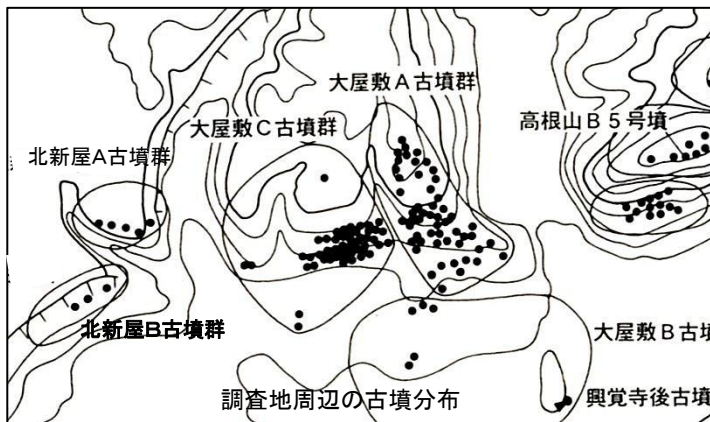
窯の周辺から出土した灰釉陶器の特徴から、10世紀代に3号窯での生産が行われたと考えられます。



大屋敷3号窯周辺出土 灰釉陶器

北新屋B古墳群調査の成果 ～古墳時代終末期の群集墳～

調査地周辺の台地や丘陵には、古墳時代後期から終末期（6～7世紀）にかけて、横穴式石室（よこあなしきせきしつ）を有する小型の円墳が数多く築かれています。北新屋B古墳群は、過去に調査地北側の台地上に3基の存在が知られています（1～3号墳：詳細不明）。今回の調査では、さらに3基（4～6号墳）を確認しました。いずれも7世紀代に築かれたと考えられます。



横穴式石室を有する古墳の模式図



北新屋B6号墳



北新屋B5号墳出土 須恵器

【北新屋B5号墳】

墳丘は確認できませんでしたが、入口を石でふさいでいる全長4.8m、幅1.0mの横穴式石室がみつかりました。石室内などから須恵器（すえき）が発見されています。

【北新屋B6号墳】

墳丘は確認できませんでしたが、現存長2.6m、幅0.9mの横穴式石室がみつかりました。石室の仕切り部分の両袖に石を立てています。



北新屋B5号墳

おわりに

今回、宮口古窯跡群では6・7例目となる窯本体の調査であり、この地域における平安時代の陶器生産の実態にせまる上で貴重な資料が得られることとなりました。また、北新屋B古墳群の調査では、分布密度は薄いものの、東隣の丘陵に立地する大屋敷C古墳群と同じ古墳時代終末期における墓域の広がりをも明らかにすることができました。今後は3月まで調査を行い、翌年度以降に資料整理・分析等を進めた上で、調査成果の公開・活用を図っていきたく考えています。

《注意事項》

- ★決められた箇所以外の立入はご遠慮ください。また、道路を横断する箇所がありますので、車にご注意ください。
- ★撮影された画像等を公開する際には、他の来場者について人物が特定されないようご配慮ください。
- ★安全管理上、現地説明会以外の日に、無断で発掘現場へ立ち入ることはご遠慮ください。